

心臓血管外科

診療科の概要

小児循環器科と協力して、先天性心疾患の治療を行っています。子どもたちが、外科治療後数十年にわたって快適な人生がおくれるよう、必要な治療を適切な時期に行うことを心がけています。一回の外科治療で治すのではなく、複数回の外科治療（段階的手術）が必要になることもあります。外科治療を直ちに行うよりは、しばらく待機して行うほうがよいと考えられる場合もあり、就学年齢までに、最終の修復手術を終えることを目指しています。手術例の約半数は新生児や1歳未満の乳児です。また、小児循環器科による胎児診断により、生まれる前から治療を計画し、出生後、直ちに内科治療、および外科治療を行うことも得意としています。



主な対象疾患

外科治療が必要と考えられる先天性心疾患すべてが対象です。手術件数は、単心室類似疾患、心室中隔欠損症、ファロー四徴症、心房中隔欠損症、房室中隔欠損症などが多いですが、そのほか、総肺静脈還流異常症、完全大血管転位症、左心低形成症候群、大動脈弓離断症などの、複雑心疾患も積極的に治療しています。低出生体重児の動脈管開存症にも、時期を逸することなく外科治療を行っています。また、当センターの特徴として、新生児期から外科治療を要する重症心疾患児が対象となることが多いですが、一方で、心内修復術後の成人期に達する患者さんまで、幅広く診療しています。



主な検査と治療

心臓カテーテル検査、心臓超音波検査、胸部CT検査などが、小児循環器科、放射線科により行われ、小児循環器科との合同カンファレンスにより、適切な外科治療方法、手術時期を決定します。手術は、人工心肺装置で全身循環を維持して心内修復を行う、いわゆる開心術と、心臓の外の血管を修復する非開心術にわかれます。非開心術には、動脈管結紮術、大動脈再建術の他、体動脈-肺動脈短絡術、肺動脈絞扼術などの準備手術があります。重症心不全や呼吸不全例に対しては、補助体外循環（ECMO）治療も行います。術後急性期には、集中治療室において、集中治療科と協力して治療をすすめます。急性期をすぎると、主に小児循環器科と協力して治療を行います。退院後は、心臓血管外科と小児循環器科で交互に外来診療を行います。

診療実績(2023年)

手術件数：208件

開心術：113件

非開心術：53件

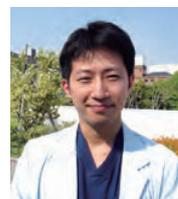
心・大血管以外：42件



主任部長
津村 早苗



副部長
金谷 知潤



診療主任
三輪 晃士